関数プログラミンク 関数プログラムの評価 関数 型 関数の定義 関数プログラムの処理系

#### 関数プログラミングの基本概念

胡 振江

東京大学 計数工学科

2008年10月6日,20日

Copyright © 2007 Zhenjiang Hu, All Right Reserved.

#### 関数プログラミング

関数プログラミングは二つ部分からなる。

● 関数を定義する。

```
square :: Integer \rightarrow Integer
square x = x * x
smaller :: (Integer, Integer) \rightarrow Integer
smaller (x, y) = \mathbf{if} \ x \le y \ \mathbf{then} \ x \ \mathbf{else} \ y
```

② 計算機を用いて式を評価する。

```
? square 3768
14197824
? square (smaller (5,3+4))
25
?
```

### 関数プログラムの評価:式の簡約

関数プログラムの評価は、式を「最も単純な等価な形」に簡約し 結果を表す過程である。

$$square (3 + 4)$$

$$\Rightarrow \{ def. of + \}$$

$$square 7$$

$$\Rightarrow \{ def. of square \}$$

$$7 * 7$$

$$\Rightarrow \{ def. of * \}$$

$$49$$

### 簡約方法は唯一ではない

式 square(3+4) を簡単にする方法はこのほかにもある.

$$square (3 + 4)$$
 $\Rightarrow \{ def. of square \}$ 
 $(3 + 4) * (3 + 4)$ 
 $\Rightarrow \{ def. of + \}$ 
 $7 * (3 + 4)$ 
 $\Rightarrow \{ def. of + \}$ 
 $7 * 7$ 
 $\Rightarrow \{ def. of * \}$ 
 $49$ 

### 止まらない簡約もある

次のプログラムを考える。

```
three :: Integer \rightarrow Integer three x = 3
```

infinity :: Integer infinity = infinity + 1

式 three infinity の評価はどうなるか。

- infinity を優先的に簡約すると、無限ステップになる。
- three を優先的に簡約すると、結果がすぐに得られる。

## 関数プログラミング言語

関数プログラミング言語は,ラムダ計算 (lambda calculus) の概念をプログラミング言語として体現したもの.

代表的な関数プログラミング言語

- Lisp 1958- (Scheme 1970 年代後半-)
- ISWIM 1966-
- ML 1970 年代後半-
- Miranda 1985-
- Haskell 1987- (純粋関数プログラミング言語, Haskell の名前は論理学者 Haskell B. Curry に由来, 本講義で使う言語)

# 関数(数学)

入力 x に対して,出力 y のただ一つの値を決定する規則が与えられているとき、 y を x の関数という.対応規則を明示するときは,

$$y = f(x)$$

のように対応規則に名前を付与する.

# Cの関数 ≠ 関数 (数学)

```
例:プログラミング言語 C の関数定義
```

```
1: int y = 10;

2: int f (x: int) {

3: printf ("Hello!");

4: return y * x;

5: }
```

次の点で数学の関数とは異なる.

- 副作用を持つ: 関数の処理の実行によってシステムに変化が 発生する
- ★態を持つ:引数が同じでも状況に応じて戻り値が異なる

# 本講義中の関数 = 関数(数学)

関数

$$f::A\to B$$

は型 A の引数 (argument) をとり、型 B の結果 (result) を返すという。また、x が A の元を表しているとき、x に関数 f を適用した結果を f(x) または f(x) で表す。

 $square :: Integer \rightarrow Integer$ 

 $smaller :: (Integer, Integer) \rightarrow Integer$ 

three :: Integer  $\rightarrow$  Integer

### 関数の外延性

#### 関数の相等

f = g iff 任意の x に対して、 f x = g x が成り立つ。

次の二つの関数が等しい。

double, double' :: Integer  $\rightarrow$  Integer double x = x + x double' x = 2 \* x

#### カリー化

#### カリー化

構造をもつ値の引数を単純な引数の列に置き換える方法。

● 引数が構造を持つ

smaller :: (Integer, Integer) 
$$\rightarrow$$
 Integer  
smaller  $(x, y) = \mathbf{if} \ x \le y \mathbf{then} \ x \mathbf{else} \ y$ 

● 引数が構造を持たない

smallerc :: Integer 
$$\rightarrow$$
 Integer  $\rightarrow$  Integer smallerc  $x \ y = \mathbf{if} \ x \le y \ \mathbf{then} \ x \ \mathbf{else} \ y$ 

### カリー化の利点:部分関数

#### 関数定義

```
smallerc :: Integer \rightarrow Integer \rightarrow Integer smallerc x \ y = \mathbf{if} \ x \le y \ \mathbf{then} \ x \ \mathbf{else} \ y
```

は

smallerc :: Integer 
$$\rightarrow$$
 (Integer  $\rightarrow$  Integer) (smallerc x)  $y = \mathbf{if} \ x \le y \ \mathbf{then} \ x \ \mathbf{else} \ y$ 

と同じである。従って、

smallerc 5

は関数(どうな関数?)を表している。

#### 二項演算子のセクション表現

セクション:括弧でくくられた演算子

(+) :: 
$$Int \rightarrow Int \rightarrow int$$
  
(+)  $x y = x + y$ 

括弧でくくられた infix 演算子が普通の prefix 関数のように引数を適用することができる. また、引数として関数に渡したりすることができる.

both 
$$f x = f x x$$

と定義すると,

both 
$$(+)$$
 3  $\Rightarrow$   $(+)$  3 3  $\Rightarrow$  3+3  $\Rightarrow$  6

#### 二項演算子のセクション表現

更に拡張: 引数を演算子とともに括弧でくくる.

$$(x\oplus) y = x \oplus y (\oplus y) x = x \oplus y$$

例:

(\*2): 2倍する関数

(1/): 逆数を求める関数

(/2): 2分する関数

(+1): つぎの値を得る関数

### 関数の合成

#### 関数合成

(.) :: 
$$(\beta \to \gamma) \to (\alpha \to \beta) \to (\alpha \to \gamma)$$
  
(f.g)  $x = f(gx)$ 

例:

$$quad :: Integer \rightarrow Integer$$
  
 $quad = square . square$ 

性質

$$id . f = f . id = f$$
  
 $(f . g) . h = f . (g . h)$ 

型 (type) はある種類の値の集まりである.

#### 基本型

```
整数型 Integer/Int: {..., −3, 2, 0, 10, ···}
● 浮動小数点数型 Double/Float: {..., −3.14, 3, 0, 123.45, ...}
• 論理型 Bool: { True, False}
• 文字型 Char: {'a','b',...,'A','B',...}
• 文字列型 String: { "HelloWorld",...}
```

#### 合成型 (派生型)

リスト型 [t]: {[],[2,5,4],...} • 組型 (t<sub>1</sub>, t<sub>2</sub>): {(1,2), ('a', 3), ...} • 関数型  $t_1 \rightarrow t_2$ : {square, smallerc 5, . . .}

### 関数の型・多様型

関数プログラミングにおいて、関数は値であり、他の値と対等の ものである。関数を引数として関数に渡したり、結果として返し たりする。

apply :: 
$$(\alpha \to \beta) \to \alpha \to \beta$$
  
apply  $f \ x = f \ x$   
curry ::  $((\alpha, \beta) \to \gamma) \to \alpha \to \beta \to \gamma$   
curry  $f \ x \ y = f \ (x, y)$   
uncurry ::  $(\alpha \to \beta \to \gamma) \to (\alpha, \beta) \to \gamma$   
uncurry  $f \ (x, y) = f \ x \ y$ 

# 関数の定義 (1/3)

#### 条件の表現:

smaller :: 
$$(Integer, Integer) \rightarrow Integer$$
  
smaller  $(x, y) = if x \le y$  then  $x$  else  $y$ 

#### または

smaller :: (Integer, Integer) 
$$\rightarrow$$
 Integer  
smaller  $(x, y)$   
 $| x \le y = x$   
 $| x > y = y$ 

# 関数の定義 (2/3)

```
再帰の表現:
          fact :: Integer → Integer
          fact n = \mathbf{if} \ n == 0 then 1 else n * fact (n-1)
評価例:
                 fact 1
            = { def. of fact }
                 if 1 == 0 then 1 else 1 * fact (1 - 1)
                    \{ \text{ since } 1 == 0 \text{ evaluates to False } \}
                 1 * fact (1-1)
            = \{ 1-1=0 \}
                 1 * fact 0
            = { many steps ... }
```

# 関数の定義 (3/3)

#### 局所定義:

$$f:: (Float, Float) \rightarrow Float$$
  
 $f(x,y) = (a+1)*(b+2)$   
where  
 $a = (x+y)/2$   
 $b = (x+y)/3$ 

または、

$$f :: (Float, Float) \to Float$$
  
 $f (x, y) = (a + 1) * (b + 2)$   
where  $a = (x + y)/2$ ;  $b = (x + y)/3$ 

## 関数プログラムの処理系

本講義で関数プログラミング言語 Haskell (コア部分) http://www.haskell.org/haskellwiki/Haskell を使う.

- Haskell のコンパイラ: ghc http://www.haskell.org/ghc/
- Haskell のインタプリタ: hugs http://haskell.org/hugs/

### Haskell のインタプリタ: Hugs

- Mark P. Jones らによって開発された Haskell のインタプリタで、現在の最新版は Hugs 98 である。
- Hugs は、多くの Unix や Windows 上で動くことが確認されており、コンパイル済のバイナリコードが Win32, Linux、Machintosh の各プラットフォームに用意されている。
- Windows 用の Hugs (winhugs) は GUI を備えており、初心者でも扱いやすくなっている。
- Hugs のインストルは簡単である.

#### 宿題

- 教科書第一章を復習し、演習問題をやる。
- Hugs または ghc システムをインストルする。
- 「Learning Haskell in 10 Minutes」を自習する。

 $http://www.haskell.org/haskellwiki/Learn\_Haskell\_in\_10\_minutes$